

このコーナーでは、毎号みなさんからお寄せいただいた「わたしのお気に入りの景観」「景観づくりへの提言」など、都市景観やまちづくりに関するご意見を紹介します。

ページユの街、別府橋通り

田辺幹夫(短大教官)

東区香椎の繁華街に「セビア通り」という名称の通りがある。セビア色という色に由来して付けられた名であろう。この名は、10数年前に一般からの公募で決定した名称である。私は、そのことを新聞で知ったとき、「おっ、特な名を付けたな」と思った。街を歩いてみると、なんとなくセビアっぽい感じは受けた。それから数年、文字通りセビア色の街なることを期待した。現在の通りのイメージはどうであろうか。

私は城南区別府に住んでいるので、国道202号線バイパスの別府橋通りをいつも通る。六本松の方から自動車で別府橋を渡り、軽い登り坂の頂点に達したとき、一瞬、街を見下ろすように視界が広がる。私は、その光景が好きだ。特に初夏の季節がいい。並木の緑と割合に多いページユ色のビルとのコントラストが上品で美しい。そう最初に感じたのは、約10年ほど前、新しい城南区役所が建ったあとからである。区役所が黄ページユの建物で、偶然にもそのころ近くに建ったマンションにページユ色が多く、ひとつの統一美をかもしだしていた。もしページユ系で統一できたら个性的で美しいページユの街、別府通りになるに違いないと思った。そ

の後マンションや商業ビルが次々と新築されるたびに、ページユ色であることをひそかに期待した。そして現在、別府橋を渡るとこの街でも見るような雑多な色の乱立した、平凡なマンション街になりつつある別府橋通りを見る。

わたしの好きな景観

山本ひろみ(フアッションスクール講師)

「キャナルシティ博多」今年の春、福岡に誕生したばかりの街で、今、一番ホットなスポットとして注目を浴びているところである。この街は、福岡の都市空間を完全に塗り替えてしまった。四季折々にその表情を変え、ここに集まってくる人々の目を楽しませてくれる。この街に入ると異次元世界に迷い込んだようで楽しい。ホテル・グランド・ハイアットの地下に沿って流れているキャナルは本物にちかく、キャナルの中や地下広場に仕掛けられた噴水は意表を付けていておもしろい。地下といっても天空が見えるオーブンスペースになっているので、非常に開放感があり、特に地表から直接吹き出している噴水は、夏の間、子どもたちの格好の遊び場になっていた。広場や外通路に面しているカフェがオープンテラスになっているのもうれしい。上層部、商店街の曲がりくねった外通路は、キャナルの中央にある円形ステージから見ると、まるで大きな劇場のバルコニーのように見える。このステージで何かやっているときは、地下の広場はもとより、バルコニー型の外通路も人であふれ、演じている人も見物客も大いに盛り上がっていく。

この見事なまでの演出を考慮に入れたキャナ

ルシティの設計はすごいと思うし、今までの都市景観の常識をくつがえすような色鮮やかな建物は、まさに彩都という名にふさわしいと思う。

市民にとって快適なまちを

正田理子(主婦)

景観とは視覚に訴えてくるものだけではなく、五感に訴えてくるすべてを含むものだと思います。すなわち景観にとって重要なのは「快適さ」だといえるのではないかと。

たとえば、整然として色彩の押さえられた街並みと大人の品格をもつパリ。シックな街並みだからこそ、そこに生きる人間が引きつたのだし、パリではあくまでも人間が主役なのだと、どこかで読んだことがあります。福岡がパリのような街並みになってほしいとは思いませんが、住民が主役だというのはちょっといいと思いませんか。

福岡に限らず日本のまちは、過剰な屋外広告物、自転車やバイクの不法駐輪、交通機関や商業施設の大きすぎるアナウンスで満ちあふれています。目と耳を覆うばかりです。これらがなくなる、あるいは少なくなるだけで、快適さは大きく増すでしょう。

ハード以外のことは基本的にモラルの問題だと思います。よりよい景観は行政に任せきりにしても得られません。私たち市民(企業市民も含めて)も自己主張はやめて、我慢すべきは我慢して、アナウンスがなくても自律して行動しなくてはならないと思います。みんなが快適であれば、きっとそのまちなかの景観は美しいはずですから。